



秋田のガラスプロジェクト with 第11回 2015 あきたガラスフェスタ

秋田のガラスプロジェクト「講演＆公開制作」

東京都の離島・新島^{にいしま}に制作拠点を置き、「新島ガラス」の開発に取り組んでいるガラス作家の野田 収^{ののち}さん(上の写真)と野田由美子^{ののちみこ}さんを招き、講演と公開制作を行います。参加無料。直接会場へお越しください。

秋田公立美術大学 ☎(888)8478



プレスライン



碧^{あお}

講演 日時▶8月29日(土)10:00～11:30
会場▶秋田公立美術大学講義室2

公開制作 日時▶8月29日(土)13:00～17:00
8月30日(日)10:00～17:00
会場▶秋田公立美術大学ガラス工房

あきたガラスフェスタ「吹きガラス制作体験」

講師は、秋田公立美術大学の小牟禮尊^{こむれたかひと}人教授と井本真紀^{いのもとまき}助手、ガラス作家のショーン・サルストロム^{ショーン・サルストロム}さん。体験作品は、後日お渡しします。秋田眞貞^{まこと} ☎(853)7470

対象▶中学生以上(中学生は保護者同伴で)

日時▶8月22日(土)・23日(日)、①9:30～12:30、②14:00～17:00 会場▶秋田公立美術大学ガラス工房

体験料▶3,000円 定員▶各10人(応募多数の場合は抽選)

申し込み はがきに、住所、氏名(ふりがなと中学生は保護者氏名も)、年齢、日中連絡がとれる電話番号、希望日時(各回1人1回)を記入し、8月11日(火)(必着)まで、〒010-1632 新屋大川町12-3

秋田公立美術大学「ガラスフェスタ体験」係

あきたガラスフェスタ「展示販売」

招待作家の制作作品を展示します。また、秋田公立美術大学関係者や卒業生作家のガラス作品を展示・販売します。

日時▶8月29日(土)から9月13日(日)まで、10:00～18:30
(水曜日定休) 会場・問▶秋田眞貞(大町一丁目) ☎(853)7470



表紙のはなし♪

雄物川花火大会は毎年8月10日開催。土崎の曳山、竿燈、そしてこの花火大会と、秋田市の夏を体感するには欠かせない行事です。あとは晴天を願うばかり!!

3 市長コラム

4 ホットだよ、夏イベント!!

…雄物川花火大会／シロフクロウ
大正寺おけさままつり／ザ・ブーンイベント／
夜の動物園……………



6 エイジフレンドリーシティのマーク決定

7 市役所からのお知らせ

…臨時福祉給付金の申請／
戦没者追悼式・平和祈念式典／
市立病院の職員募集／
お盆の供え物は指定場所へ ほか

10 胸部検診巡回日程

9月1日～10月9日実施分

13 個人向け施設見学会／健康ライフ太鼓判

14 育児コーナー

…乳幼児健診日程／育児イベント

16 情報チャンネルa

…内館牧子さん講演会／美大附学院祭／
東北六魂祭写真展／
講座／催し／案内／健康 ほか

20 ミュージカル 政吉とフジタ

■編集発行＝秋田市広報広聴課 ☎018(866)2034

■〒010-8560 秋田市山王一丁目1番1号

■広報あきたは毎月第1・第3金曜日発行です。

公式ホームページ <http://www.city.akita.akita.jp/>

公式ツイッター <https://twitter.com/akitacity>

秋田市役所Facebookページ

<https://www.facebook.com/city.akita>

日々初心

市長コラム・日々初心
市長 ● 穂積 志(もとむ)



「ヒロシマ原爆と土崎空襲展」での、川本省三さん(広島市)の講演の様子。当時のことを詳しく解説しました

戦後70年

もう40年近く前の8月6日。学生だった私は、あまり暑くならないうちにと、朝早くから親戚の家で庭の草取りの手伝いをしていました。突然、真つ青な空にサイレンの音が鳴り響き、草取りの手を休め、しばらくの間、まぶしい空を見上げていたことを覚えています。朝の8時15分、それが、私が初めて広島原爆の日をはっきりと意識した最初の出来事でした。

広島市に一発の原子爆弾が投下され一瞬にして多くの尊い命が失われたのは、今からちょうど70年前。今年を終戦から70年の節目の年に当たります。

日頃から秋田市では、平和や戦争をテーマに講演会などを企画してきましたが、今年7月4日からエリアなかいちのぎわい交流館A.U.で、「ヒロシマ原爆と土崎空襲展」を開催しました。その中で、広島市の川本省三さん(81歳)の講演を聞くことができました。今までも、直接被爆を経験され

たかたの講演会がありました。今回、これまでと違うところは、川本さんは両親や兄弟を原爆で失っていますが、ご自身は、投下時直接被爆者ではなかったということ。当時11歳だった彼は、家族とは別に爆心地から50^キほど離れた三^ミ次市に疎開中でした。にもかかわらず、原爆のためにいろいろな差別を受けた話には、とても胸が痛みました。

孤児となった川本さんは、「結婚するなら好きな人」と思い、その頃お付き合ひしていた女性の家に伺ったものの、「あなたは広島で生活していたそうだね。放射能汚染の疑いがあるから娘を嫁にはやれない」と彼女の親に言われ自暴自棄になったこと。あまりのひもじさに食べ物をあさったことなどを、感情を抑えるように淡々と話されていた。

投下時の直接的な被爆ではなくても、差別や貧困、残留放射線の問題をはじめ、原爆が落とした暗い



秋田港にある「平和を祈る少女」の像

影には私たちの想像をはるかに超えるものがあると改めて思い知らされました。

このたびの「ヒロシマ原爆と土崎空襲展」では、終戦前夜、250人も尊い命を奪った土崎空襲の体験者による講演や、浅利香津代さんの講話と「はまなすはみた」の朗読会などもありました。浅利さんの平和の朗読会は、平成22年から続いており、すでに市内の小学校延べ45校、参加者は保護者を含め約4千100人にのぼっています。

秋田市は土崎空襲により甚大な被害を受けた最後の被爆地です。戦後70年。私も市長として、一つ一つの具体的な事業をとおして、平和の尊さや戦争の悲惨さを次世代に伝えていきたいと思っています。

◆秋田市ホームページで市長の動向や記者会見の内容などをお伝えしています。
「市長ほっとコーナー」<http://www.city.akita.akita.jp/city/mayor/>